

第17回サイコロロジー研究会

主催：日本レオロジー学会 サイコロロジー研究会

日時：2017年3月3日（金） 13:30-17:00

場所：株式会社アントンパール・ジャパン本社 アネックスセミナールーム

住所：東京都品川区北品川 1-20-9 FORECAST 品川 3階

アクセス：JR品川駅港南口下車 徒歩13分（次ページに会場へのアクセス図あり）

定員：50名 ※定員に達したため締切ました

プログラム：

13:30-14:10

1. 疎水基構造の異なる疎水変性ポリエーテルウレタンポリマーの動的粘弾性挙動

(ADEKA) 竹石 友紀

化粧品用増粘剤などに使われている疎水変性ポリエーテルウレタンポリマー（HEUR）は、分子両末端の疎水基が会合体を形成することで水をゲル化する。本講演では、疎水基の炭素数 24 および 32 の HEUR が形成する水ゲルの基礎物性や、多価アルコール類や界面活性剤を配合した場合の粘弾性挙動の違いについて紹介する。また、化粧品剤型への応用として、エマルションや粉体分散系に関しても粘弾性の観点から考察する。

14:15-15:15

2. 両末端疎水変性ポリエーテルウレタン/微粒子共存系のレオロジー

(資生堂) 中村 綾野

両末端疎水変性ポリエーテルウレタン(HEUR)は、水中における疎水性会合によりネットワーク構造を形成することで弾力的な物理ゲルを形成可能であり、近年多くの化粧品に増粘剤として配合されている。本発表では、HEURと微粒子混合系で見られる相乗的な増粘効果に着目し、親疎水性・形状・大きさなど、混合微粒子種による特徴的な挙動をレオロジー手法により解析した結果について報告する。

~~~~20分休憩~~~~

15:35-16:15

## 3. 化粧水の流動履歴現象と使用感触制御

(花王) 犬丸 未央

日本人女性のスキンケアとして習慣化されている「化粧水」は、肌に潤いを与える事が期待されるとともに、塗布時の極めて繊細な使用感触が重要視されている。しかし、低い粘性である化粧水の、塗布中の変化感を物性評価により解析することは困難であり、これまで官能評価をもとに製剤設計が行われることが多かった。そこで我々は、化粧水の粘度測定時のずり速度を変化させることで生じるヒステリシスを詳細に解析することで、塗布中の使用感に寄与する因子を解明、繊細な使用感触を制御する手法の開発を行ったので紹介する。

16:20-17:00

## 4. 衣料用柔軟剤におけるカプセル化香料の分散性制御技術

(ライオン) 宮島 亜佐美

衣料用柔軟剤は、香り持続性を訴求した製品が増加傾向にある。特に近年カプセル化香料が使用されているが、その配合にあたっては製剤中での分散安定化が課題となる。そこでレオロジー特性評価に基づき種々検討した結果、カプセル化香料の分散安定性および良好な使用性を両立する基材を見出した。本講演では、衣料用柔軟剤における分散安定化のメカニズムに関して、レオロジー特性及び溶存状態の両面から解析した結果について紹介する。

